

「瀬谷補給工場」その後

20211205 ガイド岸本正

前回会報 148 号にて報告させていただきました瀬谷補給工場ですが、その後参照にした図書『地図で辿る瀬谷の移り変わり』の編者である横浜地図くらぶ主催田中常義様（元横浜市港湾局）と連絡がつき、詳しい資料を提供していただくとともに現地案内を受けることができましたので、その後の知見を報告します。

戦争関連遺物として現地に遺るのは以下5点であることを確認しました。

- ①水槽と思われるコンクリート構造物
- ②容器の支持台と思われるコンクリートブロック
- ③旧米軍オペレーションビル内にある覆土式倉庫（掩体壕）
- ④煙突基礎と思われるコンクリート製構造物
- ⑤地下水槽と思われるコンクリート製地中構造物

国道 16 号線との接点付近にある①②については前回おおまかに報告しましたので、今回は③④⑤について記します。位置関係は下の通りです。



③④⑤は海軍道路東側、細谷戸住宅北側の旧米軍オペレーションビル付近にあります。このうち、③は現在国の管理地内でフェンスで囲まれているため立ち入ることはできません。GoogleMap で見ると細長い長方形の覆土が確認できます。防衛省の記録によると、ここは旧日本海軍時代「特薬庫」と呼ばれ毒ガス弾が保管されていたとのこと。寒川にあった相模補給廠で製造されていたものかどうか、またなぜ覆土式倉庫を取り入れたのかなど調査の余地があります。

拡大図



④は、草地の中に遺り間近に観察することができます。四方3m高さ3.5mのコンクリート製基礎と思われ、上部に煙突を支えていたと思われる台形状の構築物があります。内部は空洞になっていて空気取入れ口と思われる一辺が0.5mの四角窓が南面に4個、北面に2個開けられています。興味深いのは、北側に側溝のようなものがあり、西側にある③と繋がっていたことが想像されます。今後発掘調査が行われれば明らかになることと思われま

す。



さらに⑤は④の北側 10m ほど離れた位置にあります。中央角型のマンホール状穴には蓋がなく、地中内部を観察することができます。一辺の長さや深さも相当あり大きな地下構造物であることがわかります。



米軍施設として使われていた頃



これらの遺構は、③以外明確な用途は判明しておらず、それぞれの遺構の関連性も不明です。他施設（広島県大久野島など）の状況や専門家の研究などに基づいて今後解明されることが期待されます。そのためにも、保存されるべき遺

構であると思います。

なお、2021年11月18日東京新聞朝刊ミラー欄に「戦争関連遺物の保存を」との題名で拙稿が掲載されました。現在のところ、直接の反応はありませんが、花博に向けての交通システムの頓挫など何かと話題の多い地域ですので、今後も多方面からの注目を集めこの問題について市民の関心が高まるとよいと思い

ます。

小学校非常勤講師
岸本 正 68
(横浜市旭区)
横浜市が、二〇二七年の
国際園芸博覧会(花博)の
開催を目指し、瀬谷、旭両
区の旧米軍上瀬谷通信施設
跡地で開発を進めようとし
ています。しかし、当該地
は米軍施設として利用され
る以前に、旧日本海軍の軍
事施設がありました。一
般にはあまり知られていな
いかもありません。
現在の「海軍道路」東側
には、火薬庫や弾薬庫、パ
ラシュートなどの航空部品
が保管されていました。瀬
谷駅と軌道をつなげ、厚木
飛行場などに供給されてい
たと考えられています。毒
ガス弾を格納した「特薬
庫」と呼ばれる施設は、今
も残っています。土で覆わ
れた細長い戦時中の掩体壕
(軍用機を敵の空襲から守

ミラー

戦争関連遺物の保存を

1/18 21
東京

るための施設も、旧米軍
の通信アンテナコントロー
ル施設敷地に現存していま
す。これらの場所は、現在
国有地として管理され、近
づくことはできません。
また、付近には煙突の基
礎や地中水槽と思われる大
きなコンクリート製構造物
も残存しています。残念な
ことに、これらの施設の用
途など詳しいことは判明し
ていません。今後の研究が
期待されます。
しかし、花博によってこ
の土地は「公園・防災ゾー
ン」として開発されること
になっています。私は、貴
重な戦争関連遺物が撤去さ
れてしまうのではないかと
懸念しています。イベント
開催による地域の活性化も
大切ですが、戦争の記憶を
思い起こすことができ、こ
れらの施設の保存を、当局
に要請します。

さらに、2021年12月28日に当会亀岡氏・山田氏・岡本氏と現地を視察して
きました。その結果、

- ②は円筒形タンクの支持台であっただろうこと
- ③は覆土式構造になっており、地図で読み取れる他の倉庫群とは造られ方が
異なること
- ④は煙突ではなく、③と関連した除毒施設の一部と想像されること
- ⑤は③④と関連した地下浄化槽の可能性があること

などが想像されました。

山田氏や岸本は引き続き以下文献資料などから解明を進めていきます。

- ・樋口健二『毒ガスの島』
- ・『寒川町史(近現代編)』『寒川町史研究 6,8,10』『相模海軍工廠』
- ・日本地図センター、戦後早い時期の地図 横浜市役所提供、同空中写真
など

さらに、本年2月には大山しょうじ市会議員、横浜市教育委員会生涯学習文
化財課、都市整備局上瀬谷整備推進課に一連の資料を送付し、遺構の重要性を
認識していただくとともに保存要請へ向けての活動が開始されました。

2022/03